

丸亀で会いましょう

家庭と仕事を両立させてファンの期待に…

丸亀出身ボートレーサー  
ひらやまち か  
平山智加選手



平山選手

●ボートレーサーを目指したきっかけ

「やりたいことがないなら、一度試験を受けてみたら」と高3で進路に悩んでいた時の父の一言がきっかけです。小さい頃から父に「競艇選手になれ」と言われ育ちました。レース場に遊びに行ったことはありましたが、改めて見に行った時に「ビビッ」ときて、やってみようと思いました。

●昨年出産、1年2か月の休業を経て復帰。  
仕事と家庭を両立させるための工夫は

家族のサポートが大きいです。親と同居し夫も協力的なので、復帰でき仕事が続けられています。もちろん産休には、不安もありました。一体復帰してどこまで産休前の状態に戻れるのか…でも考えても仕方ないし、とにかくやれることをやろうという気持ちでした。1年以上休むと、体力も筋力もゼロになります。再び一線で走るには、トレーニング等の準備が必要で、そのときも家族にサポートしてもらいながら練習しました。

いざレースが始まると、約1週間家に帰れません。その間家族と一切連絡もとれないし、子どもの様子も見られないので、寂しいです。でも子どもを置いてまで仕事をしているのでその分がんばろうと思います。家庭と仕事はどちらも大事で選べません。しっかり両立させて、レースに出るからには、ファンのみなさんの期待に応えられるような走りをしたいです。



●ボートレーサーを目指す方へのアドバイス

ボートレーサーは、なじみがあまりない職業かもしれませんが。でも今この瞬間から興味を持って目指しても遅くありません。野球やサッカーは幼い頃から始める人が多いですが、ボートはみんなが初めてで、養成所に入ってから一斉のスタートです。少しでも興味を持ったから、レース場に行ったり、試験に挑戦したりしてほしいです。すごい選手になれる可能性があります。また男女一緒に戦う競技なので、性別に関係なくチャンスがあります。女の子でも活躍できる世界だし、収入面も魅力的で、カッコいい職業です。ボートレーサーに向いているのは、やはり負けず嫌いな人。目的意識をしっかり持っている人がいいと思います。今後一人でも多くの人が目指してくれたらうれしいです。

**お知らせ** ~平均年収約1,600万円。未経験から目指せるプロアスリート。今、夢が動き出す。~

第126期  
ボートレーサー  
募集!

- 募集期間 平成30年7月1日(日)~9月7日(金)
  - 応募資格 (1)年齢 15歳以上30歳未満 (2)学歴 入所日(平成31年4月1日)において中学校を卒業していること (3)身長 175cm以下 (4)体重 男子47kg以上57kg以下、女子42kg以上50kg以下 その他条件あり。
- ※詳しくは、日本モーターボート競走会丸亀支部(0877-24-4560)までお問合せください。

Information

8/31(金)必着

最優秀賞は、2万円相当の商品券あり  
男女共同参画川柳 作品募集



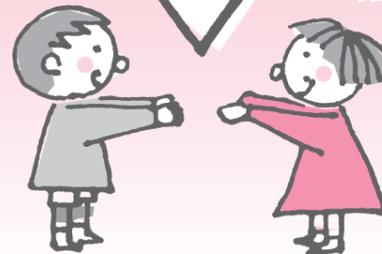
- テーマ 家事や子育て、介護への男性の参加や、夫婦での家事分担など「家庭における男女共同参画」について、みなさまの思いや疑問をこめた川柳を募集します。
- 応募資格 丸亀市内に在住、通勤、通学している方
- 応募方法 官製はがき、ファクス、メールにて①川柳作品、②作品に対するエピソード等、③住所、④名前(ふりがな)、⑤年齢、⑥電話番号、⑦応募資格(所属団体、学校名等)の事項を記入し、下記の応募先までご提出ください。
- 応募・問合せ先 丸亀市総務部人権課男女共同参画室  
連絡先は、下記編集発行元参照

**編集後記** 香川県は、晴れの日は多く穏やかな気候のため、災害が少ない県と言われている。近年、南海トラフ地震が話題になっているが、他県と比べると危機意識が低いように感じる。先日も土木学会から南海トラフ被害は、20年間の経済的被害額が最悪1410兆円と発表された。日常の中で意識する機会は少ないので、このようなニュース等に触れたとき、意識的にできることから取り組みたいと思った。(H)

まるがめの  
パパたちの  
写真展を  
開催



第40号



平成30年6月26日(火)~7月2日(月) 飯山総合学習センターにて、丸亀市に通勤、在住のお父さんが育児をする様子を写真におさめた「まるがめのパパたち」の写真展を開催しました。

最近、家事・育児・介護などに関わる男性も増え、公園やスーパーでも子どもと一緒に遊ぶお父さんをよく見かけるようになりました。みなさんのまわりではいかがでしょうか。

そんな育児に奮闘する「パパたち」の様子をご紹介します。

まるがめのパパたち作品紹介



「みんな~ ミモカに来てね!」  
空間といい、キュレーションといい、展示といい、1日ずつと遊べます。



「大きくなったね!」  
家族4人で旅行。弟が産まれてお姉ちゃんになって、頼もしく成長中。いつまでも、こうやって抱っこしたいな。



「パパと3人3様」  
はじめての飛行機を使った家族旅行で、母が離れたときに飛行機を見ていた光景です。飛行機が離着陸するために動いている以外は、お父さんに「かまってちゃん」な末っ子でした。

同時開催 スウェーデンのパパたち



昨年夏より、全国各地の巡回先で好評の展示。育児休業を取得し自分の子どもや家族との絆を深めているスウェーデンの父親たちの日々の生活に焦点を当てた写真展です。

日本の男性の育児休業取得率は、5.14%(2017年)(平成29年雇用均等基本調査より)ですが、スウェーデンは約90%(2016年)(The Economistより)と高い取得率となっています。この写真展では、世界中のほとんどの父親よりも子どもとずっと長く過ごすようになった理由を垣間見ることができました。

来場者の感想

- ・スウェーデンのパパは、日本のパパとは全然ちがう。うちのパパは何もしないので…。(10代女性)
- ・育休先進国でも、男性の育児休業を肯定的にとらえていない人もいることに驚いた。(40代男性)
- ・パパたちの表情がやさしく、自然である。本当に育児を楽しんでいるんだとリアルな感じが伝わってくる。(60代女性)